



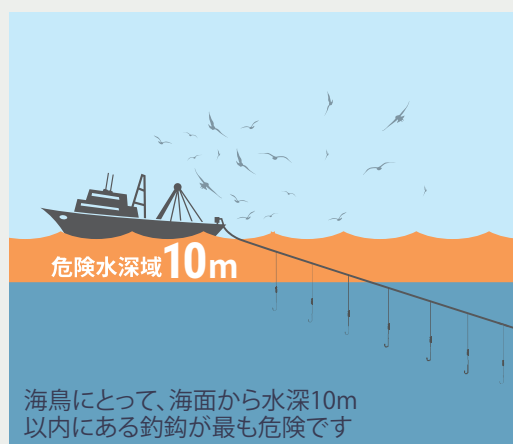
# 浮延縄漁による 海鳥混獲の防止

## 釣鉤の保護 (フックシールドイング) 概説

2019年5月更新

### フックシールドイングと その仕組み

釣鉤の保護装置(フックシールドイング)は、投縄の際に延縄用釣鉤の先端と返し部分を守り、投縄中に海鳥が捕獲されるのを防ぎます。海鳥は主に海水上層で餌付きの鉤を攻撃します。ほとんどの海鳥が餌を獲る水深よりも深い位置まで効果的に釣鉤を保護するためには、釣鉤保護装置は水深が10mより深いところ、または浸水10分以上してから保護ケースから釣鉤を放つ必要があります。



### フックポッド

フックポッドは、釣鉤保護の特性、重量、沈降速度、そして釣鉤を放つ最低深度に基づき、アホウドリ類及びミズナギドリ類の保存に関する条約(ACAP)の最善策基準を満たすと考えられている釣鉤の保護装置です。

この装置の重さは68gで、使用時は釣鉤(フック)に直接装着され(これによりACAPの最低枝縄重量の最低必要条件を満たす)、釣鉤の返しや先端部分をプラスチック製のケースに入れます。水圧で解除する仕組みにより、深度10m以上でこのケースが開き、餌が付いた釣鉤が放たれます。フックポッドは、上記深度で開くと、磁気スイッチで始動するLEDライトを搭載しています。このLEDは使い捨てのケミカル・ライトスティックの代用(海洋ゴミの削減)や水中灯の代用として搭載されています。

### フックポッド - ミニ

フックポッド・ミニは小型の釣鉤保護装置ですが、ACAPによる正式な評価は行われていないため、ACAPの最善策リストには含まれていません。この装置はフックポッドと同様に作動し、深度10m以上で開くまで、餌が付いた釣鉤を保護します。フックポッドとの大きな違いは、フックポッド・ミニの重量は45gで、LEDライトを搭載していないことです。フックポッドと同様に、フックポッド・ミニも釣鉤に装着して使用します。

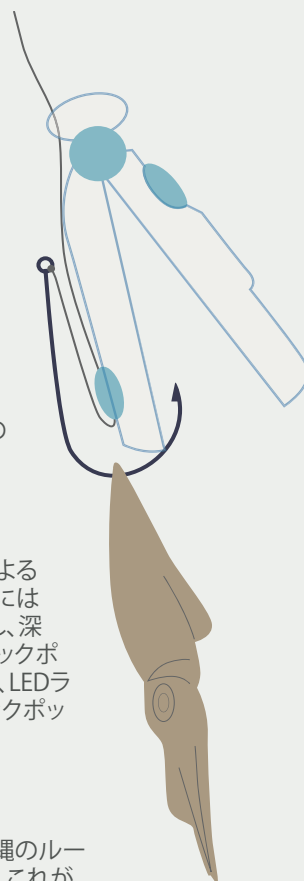
### 問題点と解決法

フックポッドとフックポッド・ミニの構造上、投縄の際に枝縄のループを形成しますが、これに海鳥が絡まる可能性があります。これが、この装置がACAPの加重枝縄と沈降速度に関する要件を満たす必要がある理由でもあります。しかし、ループ部分の長さは枝縄に装置を装着する位置を変えることで調整できます。

### 他の混獲回避措置との併用

- これらの装置は以下の2つの性能を兼ね備えています:
- ほとんどの海鳥が餌を獲る深度より深い所でケースが開くまで、餌が付いている釣鉤を保護する。
  - 枝縄への加重により、迅速な沈降を確実にする

釣鉤保護装置は単独で使用しても、トリライン(吹き流し)や夜間投縄等の他の方法と併用することもできます。



夜間投縄  
海鳥があまりいない  
時間帯に行うので、  
混獲を減らすのに  
役立ちます

アホウドリ類やミズナギドリ類  
の海鳥は、延縄漁やトロール漁  
に最も影響を受けています

釣鉤保護装置ほとんどの  
海鳥が 餌を獲る深度より  
深くまで、釣鉤の先と返し  
部分を保護し、迅速な沈  
降を確実にする錘として  
も機能します

危険水深域 10m

海鳥の多くは、  
水深10m以内で  
餌を狙います

